

第4章

倉吉市いきいき健康・食育推進計画 最終評価の結果

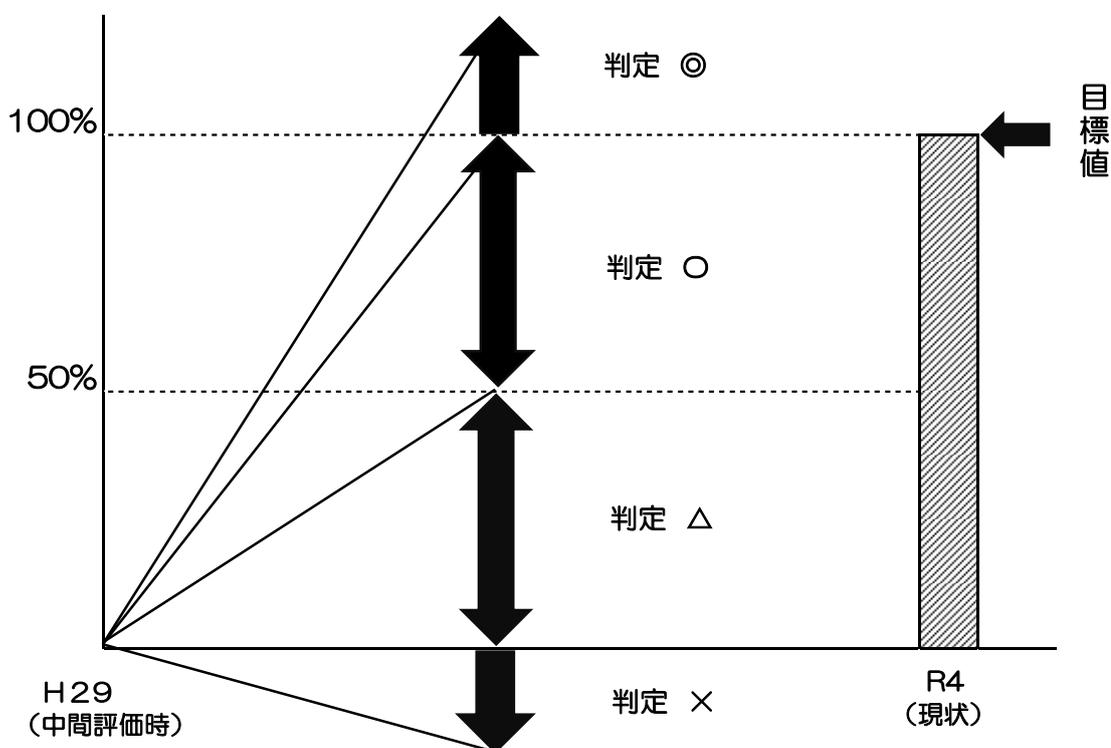


くらしのそと

目標値の達成状況の評価の考え方

各指標の達成状況については、下記判定区分の基準により評価しました。

評価	判定基準
◎	現状値が既に目標値に達成している。(100%達成)
○	現状値が、目標達成にむけ順調に改善している。(50~99%改善)
△	現状値が、中間評価時より改善している。(1~49%改善)
×	現状値が、横ばいもしくは悪化している。



$(\text{令和4年度現状値} - \text{H29年度現状値}) / (\text{令和4年度目標値} - \text{H29年度現状値}) \times 100$

※ 中間評価時の数値が、5年間でどのくらい目標値に近づいたか。

100%以上	◎
50%以上、100%未満	○
0~50%未満	△
マイナス表記	×

I . 生活習慣病の早期発見と早期治療、重症化予防

- 1 がん**
- 2 糖尿病**
- 3 循環器病**

1 がん

<倉吉市の目標>

がん検診を毎年受けて、早期発見、早期治療

<倉吉市の目指す方向性>

- がんの予防に有効とされる生活習慣の定着
- がん検診受診率の向上

<具体的な数値指標>

指標	区分	平成23年度 現状値	平成29年度 現状値	令和4年度 目標値	令和4年度 現状値	目標値の 達成度
①75歳未満のがんの年齢調整死亡率（10万人当たり）	男性	117.7	132.9	111.2	81.9	◎
	女性	49.7	57.7	53.7	33.4	◎
②毎年がん検診を受診している者の割合	20歳代	3.6%	5.7%	10%	6.0%	△
	30歳代	12.3%	15.3%	20%	22.2%	◎
	40歳代	34.7%	37.9%	50%	38.8%	△
	50歳代	36.9%	39.0%	50%	43.4%	△
	60歳代	29.3%	23.7%	50%	45.0%	○
	70歳以上	37.8%	26.9%	50%	36.9%	△
③がん検診の受診率	胃がん	13.5%	19.0%	50%	21.5%	△
	肺がん	15.1%	18.6%	50%	20.5%	△
	大腸がん	16.4%	19.2%	50%	20.4%	△
	子宮がん	15.6%	17.6%	50%	18.3%	△
	乳がん	10.9%	11.4%	50%	11.0%	×
④がん検診の精密検査受診率	胃がん (X線のみ)	73.4%	67.4%	100%	97.1%	○
	肺がん	92.2%	82.2%	100%	83.7%	△
	大腸がん	71.2%	74.9%	100%	81.7%	△
	子宮がん (頸部のみ)	70.6%	57.1%	100%	86.4%	○
	乳がん	94.0%	85.7%	100%	95.7%	○

(令和4年度現状値)

- ①……………令和2年度数値
- ③、④………令和3年度数値

(出典)

- ①……………人口動態統計
- ②……………健康づくりに関するアンケート
- ③、④……………がん検診受診結果

1 現状と課題

- 75歳未満のがんの年齢調整死亡率の低下（目標値達成）
- がん検診及び精密検査受診率の向上
- がん検診の受診率は、毎年増加しているものの、目標値や県平均受診率に達していない。
- 乳がん検診の受診率の低下

2 今後の施策の方向性

<重点事項>

- 「受けやすいがん検診」の体制づくりの推進
- 壮年期（40歳～64歳）に対する適切な生活習慣とがんの知識の普及
- 市民に対するがん検診受診率向上に向けた啓発活動の推進
- 一次検診、精密検査未受診者への受診勧奨

<その他の事項>

- 子宮頸がんワクチン接種の推進
- 肝炎ウイルス検査の推進

2 糖尿病

<倉吉市の目標>

毎年受けます特定健診。1にメタボ予防、2に糖尿病発症防止、3に糖尿病重症化予防

<倉吉市の目指す方向性>

- 一次予防によるメタボリックシンドロームの改善、糖尿病の予備軍、有病者の減少
- 特定健診による異常の早期発見、早期の生活習慣の改善
- 糖尿病の適切な初期治療と治療の継続による重症化の予防

<具体的な数値指標>

指標	区分	平成23年度 現状値	平成29年度 現状値	令和4年度 目標値	令和4年度 現状値	目標値の 達成度
①メタボリックシンドロームについて内容も知っている者の割合	20～64歳	64.2%	65.3%	80%	64.6%	×
	65歳以上	43.4%	50.5%	70%	45.8%	×
②毎年健康診査を受診している者の割合	20歳代	66.7%	64.1%	80%	71.8%	△
	30歳代	77.6%	74.8%	80%	78.8%	○
	40歳代	70.4%	80.3%	90%	81.0%	△
	50歳代	76.5%	80.4%	90%	78.2%	×
	60歳代	67.6%	68.3%	80%	81.0%	◎
	70歳以上	74.0%	67.2%	80%	69.5%	△
③理想体重に近づけるよう心がけている者の割合	20～64歳	73.4%	70.4%	80%	72.7%	△
	65歳以上	87.4%	71.4%	80%	75.0%	△
④糖尿病予備軍の割合	40～74歳	7.3%	22.7%	20%	14.4%	◎
⑤糖尿病有病者の割合	40～74歳	6.6%	8.2%	8%	8.6%	×
⑥メタボリックシンドロームの該当者及び予備軍の割合	予備軍	9.8%	9.9%	9%	11.3%	×
	該当者	12.4%	7.1%	6%	19.3%	×
⑦特定健康診査の受診率		17.9%	18.5%	45%	30.9%	△
⑧特定保健指導の実施率		25.8%	13.9%	44%	38.4%	○

(令和4年度現状値)

④～⑧……令和3年度数値

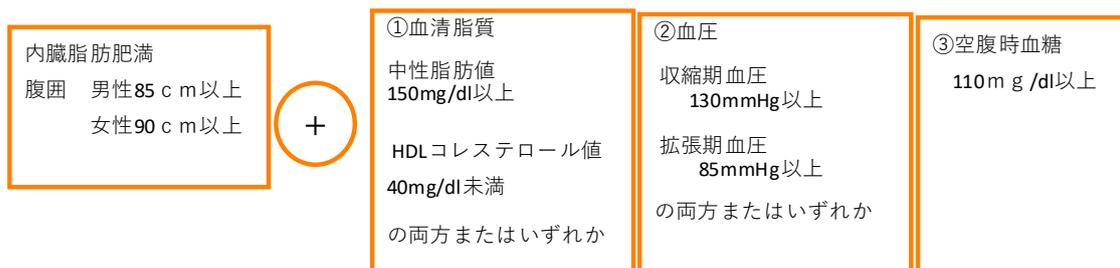
(出典)

①、③……健康づくりに関するアンケート

②……市民意識調査

④～⑧……国保特定健診受診結果

※メタボリックシンドロームの診断基準：内臓脂肪型肥満に加え、次の①～③のうち、1項目当てはまると予備群、2項目以上当てはまると、メタボリックシンドロームと診断されます。



※糖尿病の予備軍、有病者とは、次のとおり定義しています。

予備軍：HbA1c 6.0以上6.5未満、または、空腹時血糖110mg/dl以上126mg/dl未満

有病者：HbA1c 6.5以上、または、空腹時血糖126mg/dl以上の者、または、糖尿病治療者

1 現状と課題

- 毎年健康診査を受診している者の割合は、50歳代を除いた各世代において増加。特に60歳代は大きく増加し、目標値80%を達成。
- 理想の体重に近づけるよう心がけている者の割合の増加。
- 糖尿病予備軍の割合は減少し目標値の20%以下を達成しているが、有病者の割合が増加。
- メタボリックシンドロームに関する認知度の低下と、該当者と予備軍の増加。
- 特定健診の受診率、特定保健指導の実施率の増加しているが目標値よりかなり低い。

2 今後の施策の方向性

<重点事項>

- メタボリックシンドロームと糖尿病及び合併症に関する正しい知識の普及。
- 理想体重に近づけるよう体重の自己管理の促進を図る。
- 特定健診の受診率と特定保健指導の実施率を高める。

<その他の事項>

- 糖尿病から引き起こされる慢性腎臓病（CKD）に関する正しい理解と普及啓発、重症化防止
- 子どものころからの生活習慣、運動習慣の普及

3 循環器病

<倉吉市の目標>

高血圧や脂質異常をしっかりと管理

<倉吉市の目指す方向性>

- 一次予防によるメタボリックシンドロームの改善
- 循環器病発症の前段階である糖尿病、脂質異常、高血圧症の発症防止
- 特定健診による異常の早期発見、早期の生活習慣の改善

<具体的な数値指標>

指標	区分	平成23年度 現状値	平成29年度 現状値	令和4年度 目標値	令和4年度 現状値	目標値の 達成度
①高血圧予備軍の割合	40～74歳	13.2%	31.7%	30%	22.4%	◎
②高血圧有病者の割合	40～74歳	46.2%	34.3%	30%	39.0%	×
③脂質異常症有病者の割合	40～74歳	45.1%	31.5%	30%	30.0%	◎
④定期的に血圧測定を行っている者の割合	40歳以上	33.0%	32.5%	50%	29.7%	×

(令和4年度現状値)

①～③……令和3年度数値

(出典)

①～③……国保特定健診受診結果

④……健康づくりに関するアンケート

※高血圧症の予備軍、有病者とは次のとおり定義しています。

予備軍：収縮期血圧130以上140未満、または、拡張期血圧85以上90未満の者

有病者：収縮期血圧140以上、または、拡張期血圧90以上の者、または降血圧薬服用者

※脂質異常症有病者とは次のとおり定義しています。

LDLコレステロール140以上の者、または、脂質異常症治療者

1 現状と課題

- 高血圧予備軍の割合は減少し目標値の30%を達成しているが、有病者の割合が増加
- 脂質異常症有病者の減少し、目標値の30%を達成
- 定期的に血圧測定をしている者の割合の減少

2 今後の施策の方向性

<重点事項>

- 循環器病の予防に関する正しい知識の普及
- 血圧測定の自己管理の促進と減塩、バランス食の推進
- 特定健診有所見者に対する適切な保健指導
- 重症化の危険因子となる高血圧の改善及び脂質異常症の減少
- 子どもの頃からの減塩、バランス食の普及

Ⅱ. 日常生活における生活習慣病の発生予防

- 4 栄養・食生活(食育)
- 5 身体活動・運動
- 6 休養・こころの健康
- 7 喫煙
- 8 飲酒
- 9 歯・口腔の健康

4 栄養・食生活(食育)

<倉吉市の目標>

早寝・早起き・朝ごはん！食事をおいしく楽しく食べよう！
薄味で、野菜をたっぷり食べ、健康寿命を延ばそう！

<倉吉市の目指す方向性>

- 朝ごはんを毎日食べる食習慣の定着
- 適正体重を維持し、主食・主菜・副菜を組み合わせたバランスのよい食事をする食習慣の定着
- 薄味で、野菜をたっぷり食べる食習慣の定着
- 「食」に対する感謝の心を養う食育の推進
- 食の循環を考えた、環境への配慮をした食習慣の定着
- 地産地消と、豊かな食文化の継承を推進

<具体的な数値指標>

指 標		区 分	平成23年度 現状値	平成29年度 現状値	令和4年度 目標値	令和4年度 現状値	目標値の 達成度
①7時まで起床する者の割合		幼児	76.5%	62.8%	80%	62.3%	×
		小学生	93.2%	82.1%	90%	88.3%	○
		中学生	63.8%	65.7%	80%	58.3%	×
②～時まで就寝する者の割合	21時	幼児	24.2%	28.6%	50%	7.7%	×
	22時	小学生	59.4%	53.9%	70%	40.0%	×
	23時	中学生	39.3%	48.5%	60%	50.0%	△
	24時	高校生	58.1%	69.8%	80%	60.5%	×
③食事が楽しいと思う者の割合		幼児	64.7%	80.5%	90%	64.2%	×
		小学生	81.8%	74.4%	90%	84.3%	○
		中学生	64.8%	77.1%	90%	62.5%	×
		高校生	61.3%	75.0%	90%	76.7%	△
		20～64歳	78.8%	82.9%	90%	79.7%	×
	65歳以上	77.0%	79.7%	90%	73.0%	×	
④朝食を毎日食べる者の割合		幼児	97.1%	97.7%	100%	96.2%	×
		小学生	93.9%	87.2%	95%	98.0%	◎
		中学生	90.3%	88.6%	95%	77.1%	×
		高校生	83.9%	90.9%	95%	74.4%	×
		20～64歳	81.2%	76.4%	90%	74.4%	×
	65歳以上	96.6%	96.1%	100%	93.3%	×	
⑤食事のお手伝いをする者の割合		幼児	64.7%	88.3%	95%	79.2%	×
		小学生	85.1%	56.4%	80%	74.5%	○
		中学生	62.0%	62.9%	80%	60.4%	×
	高校生	54.8%	48.8%	70%	58.2%	△	
⑥1日1回以上、主食・主菜・副菜を そろえて摂取している者の割合		幼児	94.1%	92.9%	95%	88.5%	×
		小学生	85.1%	87.2%	95%	79.6%	×
		中学生	75.0%	91.2%	95%	79.2%	×
		高校生	71.0%	81.8%	90%	76.2%	×
		20～64歳	45.2%	46.8%	60%	42.4%	×
	65歳以上	59.8%	65.4%	70%	66.7%	△	

指 標		区 分	平成23年度 現状値	平成29年度 現状値	令和4年度 目標値	令和4年度 現状値	目標値の 達成度
⑦塩分や油をとり過ぎないようにしている者の割合	幼児		96.9%	76.2%	90%	76.9%	△
	小学生		73.5%	65.8%	80%	51.0%	×
	中学生		66.9%	67.6%	80%	62.2%	×
	高校生		54.8%	56.8%	70%	52.4%	×
⑧塩分をとり過ぎないようにしている者の割合	20～64歳		34.2%	33.2%	50%	36.7%	△
	65歳以上		58.6%	64.3%	80%	51.7%	×
⑨脂肪分の多いものは控えるようにしている者の割合	20～64歳		27.9%	18.9%	40%	23.0%	△
	65歳以上		40.2%	44.5%	60%	33.9%	×
⑩緑黄色野菜をとるようにしている者の割合	幼児		96.9%	95.1%	100%	80.8%	×
	小学生		87.8%	81.6%	90%	80.0%	×
	中学生		77.8%	85.7%	90%	77.8%	×
	高校生		50.0%	61.4%	80%	59.5%	×
⑪野菜を多く食べるようにしている者の割合	20～64歳		54.0%	51.2%	70%	51.9%	△
	65歳以上		70.7%	73.1%	90%	66.7%	×
⑫定期的に体重測定をしている者の割合	小学生		63.5%	53.8%	80%	64.7%	△
	中学生		59.3%	75.8%	90%	54.2%	×
	高校生		64.5%	70.5%	90%	71.5%	△
	20～64歳		84.7%	80.7%	90%	87.0%	○
	65歳以上		92.2%	81.9%	90%	87.0%	○
⑬理想体重に近づけるよう努力している	20～64歳		73.4%	70.4%	90%	72.7%	△
	65歳以上		87.4%	71.4%	90%	75.0%	△
⑭給食における残食の割合	保育所		0.9%	0.4%	0%	0.4%	×
	小学校		5.8%	2.5%	2.5%以下	5.0%	×
	中学校		5.1%	1.6%	2%以下	4.7%	×
⑮地元産（倉吉産）食材料使用の割合	保育所		16.1%	16.5%	20%以上	19.6%	○
	小学校		37.0%	27.0%	40%以上	36.0%	○
	中学校		37.0%	27.0%	40%以上	36.0%	○
⑯郷土料理を知っている者の割合	いぎす	20～64歳	94.5%	97.5%	100%	89.1%	×
		65歳以上	98.0%	97.5%	100%	96.4%	×
	いわし団子	20～64歳	78.9%	78.9%	90%	75.4%	×
		65歳以上	90.2%	87.6%	100%	84.3%	×
	しょうのけ飯	20～64歳	82.8%	80.3%	90%	76.6%	×
		65歳以上	85.6%	83.9%	90%	86.7%	△
	どんどろけ飯	20～64歳	32.0%	25.4%	40%	32.5%	△
		65歳以上	34.6%	33.5%	40%	22.9%	×
	こも豆腐	20～64歳	9.3%	4.2%	10%	5.8%	△
		65歳以上	22.9%	11.8%	20%	9.0%	×

(令和4年度現状値)

⑭……保育所:令和3年度2月分、小・中学校:令和4年度1学期分

⑮……保育所:令和3年度2月実施、小・中学校:令和3年4月～R4年3月末(令和3年度分)

(出典)

①～⑬、⑯……健康づくりに関するアンケート

⑭、⑮……保育所・学校給食センター調査

1 現状と課題

- 7時までに起床する小学生の割合が増加、幼児・中学生の割合は減少
- 全体的に就寝時間が遅くなっている中で、特に21時までに寝ない幼児の割合が大幅に増加
- 小学生、高校生を除く年代で食事が楽しいと思う割合が減少
- 小学生を除くすべての年代で朝食欠食率が増加
- 1日1回以上、主食（ご飯、パン、めん類等）・主菜（肉、魚、卵、大豆製品等）・副菜（野菜等）をそろえて食べている者の割合が、ほぼ全年代において減少
- 塩分や油のとり過ぎに気をつけている者の割合は、幼児や20歳から64歳以下では増加しているものの、それ以外の年代では減少
- ほぼすべての年代において、野菜を多く摂るように意識している者の割合が減少
- 体重への関心は、ほぼすべての年代で高くなっている。
- 小・中学生の給食を残す割合が高くなっているのは、新型コロナウイルス感染症による急な欠席によるものと考えられる。
- 保育所・学校の給食での地元産の食材料の使用割合が増加
- 郷土料理の認知度の低下

2 今後の施策の方向性

<重点事項>

(1) 家庭における食育の推進

- 早寝、早起き、朝ごはんを食べる基本的な生活習慣の実践
- 家族全員で食事作りをするという意識啓発
- 「食」について幅広く学び、理解を深める

(2) 保育所、認定こども園、学校等における食育の推進

- 食育に関する教育の実践
- 地産地消の推進

(3) 地域における食育の推進

- 地域の特色ある食文化の理解と継承の推進
- 食生活改善推進員の活動の推進及び強化

(4) 生産者・事業者における食育の推進

- 体験活動を通じた食に関する学習の推進
- 地域食材の魅力を伝える地産地消の推進

(5) 行政における食育の推進

- 「食育」についての知識の普及及び啓発
- 生産者等との交流事業に対する支援

5 身体活動・運動

<倉吉市の目標>

見直そう日々の運動習慣。自分の生活スタイルの中で、意識して歩く時間(※)を作ろう。

<倉吉市の目指す方向性>

- 日常的なウォーキング等の定着

※意識して歩く時間とは

1回10分以上の歩行を毎日、または、1日30分以上の歩行を週2回以上が目安です。

<具体的な数値指標>

指標	区分	平成23年度 現状値	平成29年度 現状値	令和4年度 目標値	令和4年度 現状値	目標値の 達成度
①週に1回以上運動している者の割合	20～64歳	17.2%	16.7%	30%	20.1%	△
②運動不足だと思う者の割合	20～64歳	77.5%	74.3%	40%	75.5%	×
③1日に30分以上歩く者の割合	20歳以上	52.1%	49.1%	70%	49.4%	△
④積極的に外出している者の割合	65歳以上	49.2%	55.6%	70%	56.0%	△

(出典)

健康づくりに関するアンケート

1 現状と課題

- 運動不足を感じている者の増加に伴い、意識的に適度な運動を生活に取り入れる者が増加

2 今後の施策の方向性

<重点事項>

- 日常的なウォーキング等の推進
- 日常生活における身体活動の推進

<その他の事項>

- 民間団体(運動分野)と連携した運動習慣の普及・定着
- 幼児期から楽しく、身体を動かす習慣(歩育)の推進

6 休養・こころの健康

<倉吉市の目標>

十分な睡眠と休養の重要性の啓発

<倉吉市の目指す方向性>

- 十分な睡眠、休養がとれ、ストレスを感じる者の減少
- 働き盛り世代のストレスの軽減、うつ病や自死の減少
- こころの相談窓口やうつ病の相談・受診先の周知

<具体的な数値指標>

指標	区分	平成23年度 現状値	平成29年度 現状値	令和4年度 目標値	令和4年度 現状値	目標値の 達成度
①21時までに寝る者の割合	1歳6か月児	55.9%	65.3%	80%	76.4%	○
	3歳児	40.4%	47.1%	80%	55.3%	△
②22時までに寝る者の割合	小学生	59.4%	53.9%	70%	40.0%	×
③睡眠による休養がとれている者の割合	高校生	87.1%	70.4%	80%	83.4%	◎
	20～64歳	79.9%	74.7%	80%	73.4%	×
	65歳以上	90.8%	87.9%	90%	81.6%	×
④最近ストレスを感じたことのある者の割合	高校生	83.9%	86.0%	50%	78.6%	△
	20歳以上 男性	69.0%	77.6%	50%	77.8%	×
	20歳以上 女性	81.0%	84.1%	50%	85.1%	×
⑤自死者の数		16人	11人	30%以上 減らす	16人	×

(令和4年度現状値)

①、②、⑤……令和3年度数値

(出典)

①……令和3年度 1歳6か月児・3歳児健診時アンケート

②、③、④……健康づくりに関するアンケート

⑤……人口動態統計

1 現状と課題

- 21時までに就寝する乳幼児の割合の増加
- 22時以降も起きている小学生の割合の増加
- 睡眠によって休養がとれている者の割合は高校生では増加（目標達成）、成人では減少
- 最近ストレスを感じたことのある者の割合は、高校生では前回との比較で減少はしているものの、割合は高い。20歳以上では増加傾向にある。
- 自死者数の急増（※ 令和元年：7人、令和2年：5人）

2 今後の施策の方向性

<重点事項>

- こころの健康に関する知識の普及啓発
 - ・睡眠キャンペーン等を通じた睡眠の重要性について啓発
 - ・乳幼児健診等の機会を通じて早寝早起きの重要性について啓発
 - ・ストレスとの付き合い方や解消方法について情報発信
- こころの健康を支援する相談体制の整備
 - ・各種相談窓口について周知
 - ・行政と専門機関や関係団体が連携し、相談内容に応じ、適切な専門相談機関へつなぐ
 - ・こころの悩みに気づき、見守り、適切な専門機関へつなぐことができる人材（ゲートキーパー）の養成

7 喫煙

<倉吉市の目標>

喫煙をやめようと思う人への禁煙支援と、受動喫煙防止の徹底

<倉吉市の目指す方向性>

- 喫煙率の更なる減少
- 禁煙指導を受ける者の増加
- 多数の人が利用する場所の禁煙の徹底

<具体的な数値指標>

指標	区分	平成23年度 現状値	平成29年度 現状値	令和4年度 目標値	令和4年度 現状値	目標値の 達成度
①喫煙者の割合	20歳以上 男性	26.4%	24.4%	20%	25.0%	×
	20歳以上 女性	4.5%	5.9%	4%	4.1%	○
②妊婦の喫煙率		7.7%	3.1%	0%	1.1%	○
③乳幼児のいる家庭の 同居家族の喫煙率	1歳6か月児	-	41.9%	30%以下	35.6%	△
	3歳	-	46.3%	30%以下	39.8%	△
④COPD（慢性閉塞性 肺疾患）を知っている 割合	20歳以上 男性	-	-	-	29.7%	-
	20歳以上 女性	-	-	-	38.2%	-

（令和4年度現状値）

②、③……令和3年度数値

（出典）

- ①……健康づくりに関するアンケート
- ②……母子健康手帳交付時アンケート
- ③……令和3年度 1歳6か月児・3歳児健診時アンケート
- ④……健康づくりに関するアンケート

1 現状と課題

□ 成人女性の喫煙率の減少、成人男性の喫煙率の増加

※ 全国平均 男性 27.1% 女性 7.6%

（厚生労働省 令和元年国民健康・栄養調査結果）

□ 妊婦の喫煙率の減少

□ 乳幼児のいる家庭の同居家族の喫煙率の減少

2 今後の施策の方向性

<重点事項>

- 小・中学生、高校生のうちから、喫煙、受動喫煙がもたらす健康被害など、喫煙に関する知識の普及
- 公共施設の全面禁煙の促進
- 未成年者や妊産婦のいる家庭への禁煙に関する情報提供

<その他の事項>

- COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度の向上
- 禁煙指導を受けることができる医療機関の周知

8 飲酒

<倉吉市の目標>

節度ある適度な飲酒に努めよう

<倉吉市の目指す方向性>

- 適正飲酒(※)の定着
- 多量飲酒する者の減少

※適正飲酒（節度ある適度な飲酒）とは

通常のアルコール代謝機能を有する日本人においては、節度ある適度な飲酒は、1日平均純アルコールで20g程度とされています。これは、大体、ビール中瓶1本、日本酒1合、酎ハイ（7%）350mL缶1本、ウイスキーダブル1杯などに相当します。

<具体的な数値指標>

指標	区分	平成23年度 現状値	平成29年度 現状値	令和4年度 目標値	令和4年度 現状値	目標値の 達成度
適正飲酒を心がけている者の割合	20歳以上	70.6%	71.3%	90%	78.4%	△

（出典）

健康づくりに関するアンケート

1 現状と課題

- 適正飲酒を心がけている者の割合の増加

2 今後の施策の方向性

<重点事項>

- 多量飲酒がもたらす健康被害など、飲酒に関する知識の更なる普及
- アルコール依存症に関する知識の普及と相談先の周知
- 未成年者、妊婦への飲酒に関する健康教育の充実

9 歯・口腔の健康

<倉吉市の目標>

生涯を通して、う歯・歯周病・オーラルフレイル（虚弱）を予防し、いつまでもおいしく食べられる口でいよう

<倉吉市の目指す方向性>

- 年1回は歯科健診（検診）を受け、う歯・歯周病予防の強化と罹患者の減少
- 乳幼児期及び学齢期のう歯の更なる減少と学齢期からの歯肉炎予防
- 乳幼児期から高齢期までの口腔機能の獲得、維持、向上
- 80歳で20歯以上の歯を保つ

<具体的な数値指標>

指標	区分	平成23年度 現状値	平成29年度 現状値	令和4年度 目標値	令和4年度 現状値	目標値の 達成度
①う歯の罹患率	1歳6か月児	0.3%	1.4%	0%	0.3%	○
	3歳児	16.0%	9.9%	5%	9.2%	△
②う歯の罹患率	4歳児	29.3%	22.3%	15%	23.6%	×
	5歳児	38.8%	28.1%	20%	26.1%	△
③う歯の罹患率	小学生	59.7%	51.7%	40%	54.3%	×
	中学生	57.7%	50.8%	40%	35.7%	◎
④年1回以上歯科健診（検診）を受けている者の割合	20～64歳	22.9%	27.1%	40%	35.6%	○
	65歳以上	38.6%	38.9%	50%	31.0%	×
⑤朝食後や就寝前に歯みがきをしている者の割合 （朝と晩に歯みがきをする）	幼児	70.6%	62.8%	80%	67.9%	△
	小学生	68.2%	48.7%	80%	56.9%	△
	中学生	83.4%	75.8%	90%	79.2%	△
	高校生	74.2%	77.3%	90%	73.8%	×
⑥歯周病を有する者の割合	40歳代	-	38.9%	30%	66.6%	×
	50歳代	-	43.2%	35%	57.6%	×
	60歳代	-	37.7%	30%	71.6%	×
	70歳代	-	47.5%	40%	71.0%	×

指標	区分	平成23年度 現状値	平成29年度現 状値	令和4年度 目標値	令和4年度 現状値	目標値の 達成度
⑦よく噛んで食べるようにしている者の割合	20歳代	18.3%	37.0%	40%	31.4%	×
	30歳代	12.3%	15.0%	30%	19.2%	△
	40歳代	15.0%	13.1%	30%	20.0%	△
	50歳代	15.2%	17.6%	30%	22.1%	△
	60歳代	18.5%	23.2%	30%	24.1%	△
	70歳代	28.9%	34.7%	40%	30.3%	×

(令和4年度現状値)

①、②、③、⑤……令和3年度数値

(出典)

①……令和3年度 1歳6か月児・3歳児健診時アンケート

②……保育所・幼稚園歯科健康診査

③……4月健康診断

④、⑤、⑦……健康づくりに関するアンケート

⑥……歯周疾患検診

1 現状と課題

- 幼児期のう歯罹患率は減少傾向にあるが、小学生になると罹患率は上昇
- 中学生のう歯罹患率が大きく減少（目標値達成）
- 年1回以上、歯科健診（検診）を受診している者の割合は、20歳から64歳では増加しているものの、65歳以上では減少
- 幼児から中学生においては、朝晩の歯みがきをしている者の割合が増加、高校生では減少
- 40歳以上の全ての年代において、歯周病を有する者の割合が大幅に増加
- よく噛んで食べるようにしている者の割合は、20歳代、70歳代で減少

2 今後の施策の方向性

<重点事項>

- 胎児の歯・口腔の健全な育成を目的に妊婦へのう歯・歯周病予防の推進
- フッ化物の利用による乳幼児期からのう歯予防の推進
- 歯の喪失防止のためのう歯及び歯周病予防対策の推進（8020運動の推進）、歯周疾患検診の対象年齢拡大の検討
- 歯科疾患の早期発見のため、歯科健診（検診）受診率向上のための支援
- かかりつけ歯科医での定期健診の推進
- 保育所、幼稚園、学校における歯・口の健康づくり（学校歯科保健）の推進

- 各ライフステージに応じた口腔機能に関する普及啓発や取組みの推進

<その他の事項>

- 食育や介護予防との連動により、口腔機能を維持、向上する取組みの推進
- 生活習慣病予防と歯科の関連性の深い疾患（糖尿病、心疾患、脳卒中、早産、誤嚥性肺炎等）との一体となった取組みの推進

Ⅲ. 健康を支え、守るための社会環境の整備

<倉吉市の目標>

みんなでやろう、健康づくり。みんなでつくろう、健康な地域。

<倉吉市の目指す方向性>

- 地域全体で行う健康づくり実践
- 働き盛り世代が「心身ともに健康」と見え、自身の健康に気を配り、適切な予防、治療を行うことができる労働環境への働きかけ
- 地域全体で相互に助け合いながら、支えあって生きていくことが出来る社会の実現

<具体的な数値指標>

指標	区分	平成23年度 現状値	平成29年度 現状値	令和4年度 目標値	令和4年度 現状値	目標値の 達成度
①健康だと感じている者の割合		67.2%	65.6%	70.0%	63.7%	×
②地域活動を通じ、支え合い、助け合っていると感じている者の割合		58.7%	59.0%	65.0%	54.1%	×
③毎年健康診査を受診している者の割合 (再掲)	20歳代	66.7%	64.1%	80%	71.8%	△
	30歳代	77.6%	74.8%	80%	78.8%	○
	40歳代	70.4%	80.3%	90%	81.0%	△
	50歳代	76.5%	80.4%	90%	78.2%	×
	60歳代	67.6%	68.3%	80%	81.0%	◎
	70歳代	74.0%	67.2%	80%	69.5%	△
④毎年各種がん検診を受診している者の割合 (再掲)	20歳代	3.6%	5.7%	10%	6.0%	△
	30歳代	12.3%	15.3%	20%	22.2%	◎
	40歳代	34.7%	37.9%	50%	38.8%	△
	50歳代	36.9%	39.0%	50%	43.4%	△
	60歳代	34.1%	23.7%	50%	45.0%	○
	70歳代	37.8%	26.9%	50%	36.9%	△

(出典)

①～③……市民意識調査

④……健康づくりに関するアンケート

1 現状と課題

- 新型コロナウイルス感染症の影響か、健康だと感じている者の割合の減少
- 地域活動を通じ、支え合い、助け合っていると感じている者の割合の減少
- 毎年健康診査を受診している者の割合は、50歳代を除いた各世代において増加。特に60歳代は大きく増加し、目標値を達成
- 毎年がん検診を受診している者の割合は、30歳代を除いた各世代において増加。特に30歳代は大きく増加し、目標値を達成

2 今後の施策の方向性

<重点事項>

- 地域住民の健康管理対策の推進
 - ・ 協会けんぽと連携をはかり、働き盛り世代への健診受診勧奨実施
 - ・ 行政と地域のコミュニティセンターをはじめとする関係団体や食生活改善推進員と連携をはかり、健康管理意識の向上をはかる。
(健診受診勧奨、健康相談・健康教育の実施等)

